

子宮がん検診を受けよう

文=宇野 真澄(保健師)

子宮

子宮がんは発生部位によって2種類に分けられます。ひとつは子宮の入り口に発生する「頸がん」、もうひとつは子宮の奥に発生する「体がん」です。どちらも同じ子宮に発生するがんですが、それぞれの特徴や危険因子は異なります。(下表参照)

最近では、子宮がん全体の発症数は減ってきている傾向にあります。若年層の子宮頸がんと年齢を問わず子宮体がんの増加が見られています。

子宮頸がん

子宮頸がんと関わりが深いとされているのが「ヒトパピローマウイルス(HPV)」です。HPVは皮膚(粘膜)に感染するウイルスで、性行為により感染します。

しかし、HPVに感染後必ずしもすぐにがんが発症す

るものではありません。定期的ながん検診を受診することが、早期発見、早期治療につながります。

子宮体がん

子宮体がんの増加の背景には、食生活の欧米化が関与しているのではないかと推察されています。生理周期のチェックや不正出血の有無など、普段からの健康管理を大切にしましょう。

子宮がんは早期発見による治療率が高いといわれています。20歳を過ぎたら必ず子宮がん検診を活用しましょう。



表：子宮頸がんと子宮体がん

子宮頸がん		子宮体がん
ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が発がんとの強い関係があるとされている	発生の特徴	内 <small>ないまく</small> 膜から発生する。内膜は生理のときにははがれてしまうので閉経前はなりにくい 女性ホルモンが関与しているものとそうでないものがある
30~40歳代	なりやすい年齢層	50~60歳代
<ul style="list-style-type: none"> 性交渉の相手が多い人 妊娠、出産回数が多い人 たばこを吸う人 	なりやすい人	<ul style="list-style-type: none"> 閉経した人 子宮内膜増殖症がある人 月経異常のある人 妊娠、出産歴のない人 ホルモン補充療法を受けた人 肥満、高血圧、糖尿病などの持病を持っている人
<ul style="list-style-type: none"> 子宮がん検診を受ける 性交渉時にコンドームを使う 	予防と対策	<ul style="list-style-type: none"> 閉経後、不正出血があった場合は医療機関を受診する 子宮がん検診を受ける



羽幌町では年に2回、巡回検診車による婦人科検診(乳がん・子宮がん検診)を実施しています。2年に一度、受診することを心がけましょう。詳しくは実施前に配布するチラシでご確認ください。